

HIGASHIOSAKA CENTRAL ROTARY CLUB

(第2660地区)

WEEKLY BULLETIN

No. 29

東大阪中央ロータリークラブ

創 立 昭和47年2月20日
例 会 日 毎週月曜日 12:30~
例 会 場 所 シェラトン都ホテル大阪
事 務 所 大阪市天王寺区筆ヶ崎町5-38
〒543-0027 ロイヤルパークス桃坂1112号
TEL. 06(6772)2320
FAX. 06(6772)2327
E-mail:hrcr@at.wakwak.com



会 長 百 濟 洋 一
会 長 エ レ ク ト 切 石 博 之
副 会 長 瀧 田 浩 彦
幹 事 三 木 武 志
会 報 委 員 長 福 岡 康 民

THE FUTURE OF ROTARY IS IN YOUR HANDS

ロータリーの未来はあなたの手の手に

2009~2010年度 国際ロータリー会長 ジョン・ケニー

第 1759 回例会 平成 22 年 3 月 15 日 (月曜日) 第 29 号

本日の例会

3月15日(月)第3例会

- ◎ソング 「四つのテスト」
◎卓 話 「サイクロンで被害にあった子供達へ
支援金の贈呈」
ゲストスピーカー 海を越える看護団 江田愛子様
(担当:岩崎史郎会員)
◎本日の献立 フランス料理

次回の例会

3月29日(月)第4例会

- ◎卓 話 「ヨット」
(担当:福岡康民会員)
◎本日の献立 寿司盛り合わせ

前回の例会記録

3月8日(月)第2例会

- ◎ビジター 大阪RC 本田孔士氏 他1名

会 長 挨拶

会長 百濟洋一

ロータリー3月は識字率向上月間・世界ローターアクト週間です。ローターアクトの目的は、「青年男女が個々の能力の開発に当たって役立つ知識と技能を高め、それぞれの地域社会における物質的、あるいは社会的ニーズと取り組み、親睦と奉仕活動を通じて全世界の人々の間により良い信頼関係を推進するための機会を提供する事にある」されています。

地区大会で大谷ガバナーの地区現況報告において、二つの特筆すべきことを述べられました。

1. 当 2660 地区において初めて吹田江坂ロータリークラブの提唱により、関西大学に大学ローターアクトが誕生しました。
2. 大阪東淀ロータリークラブと大阪ちゃやまちロータリークラブの統合式が、昨年 10 月 24 日に行なわれました。クラブ名は大阪東淀ちゃやまちロータリークラブとして IM 第 6 組所属となりました。当地区のクラブ数は 86 から 85 となりました。いたずらに会員の質を落として増強に走らずに、ロータリーの目的に沿ってより健全で効果的なクラブを作るべく、大局的な見地から、統合への英断を下されたことに、敬意を表する次第でございます。クラブの適正サイズを維持するために、クラブの統合・合併を考慮する事も選択肢の一つでございます。地区米山奨学委員会より 2010 学年度米山奨学生 35 名の中で当クラブに中国からリク・コウケツさん(男性)に決定しましたのでよろしくお願い致します。

幹事報告

幹事代理 細川勝治

1. 3月13日(土)第2回クラブ国際奉仕・WCS委員長会議には有江委員長、次年度、佐井委員長に出席して頂きますので宜しくお願い致します。
2. 他クラブ例会変更及び休会の案内を掲示しています。

出席報告

岡本委員

本日の会員数 42名
本日の出席者数 30名

本日の出席規定適用免除会員	15名
本日の出席率	83.33%
2月22日の修正出席率	88.89%

SAAニコニコ箱 大石副SAA

百済会長 山本会員、こんにちは。
 山本会員 長期欠席のお詫び、御迷惑掛けました。
 松岡会員 いつもお世話になって居ります。力不足ですみません。

卓話 「職業奉仕について」

山本義朗

今期、職業奉仕委員長を申し受けながら、長期病欠で御迷惑をお掛けしておりますので、少しでも触れさせていただきます。

私達が今、企業を運営し、天職として励んでいる仕事については社会に多少とも貢献できている存在感と社会と織りなす運命のようなものがあって、現在の職業があるのだと思います。

一般的には自分の生計、財産成形、社会的地位、名誉の確立の為の手段であると。これは決して間違いではないのですが、それでは自分の為だけの職業でしかないで、相手様、他人様の為の職業への意識の転換こそが職業倫理への第一歩でありましょう。

企業とか職業は社会に受け入れられ必要とされるものだけがその存続を許され、不心要なものはその存続を許されず、消滅していくという厳しい天地の理というものでございます。

故に、その理に適った経営の品質管理(QC)をし、半永久的に拡大生産を続け、社会に貢献することと経済効果の発揮、つまり適正な利潤を確保し、適切な供給を全うし、企業文化と雇用を創造して、それを守り、企業の発展に努力することが所謂職業奉仕というものではないかと思えます。

経営学の祖、アダム・スミスの「国富論」に依れば、資本主義経済は徹底した競走の中で富の均等は有り得ない。富の均等を図る社会主義は人間社会では存在しないのだ・・・としている。

即ち人間という動物は欲と見栄の二人連れで駆け巡る動物であるらしい。人はそれぞれ自分の為、己の利益の為に働き、富と名誉と出世を目指しての競走。そこには相手の為とか、社会の為、国の為とかの観念は全く無いのですが、”見えざる手に導かれ” 考えてもしなかった方面(国・社会)の発展に寄与し、科学と経済成長の継続的なエネルギーとなって国に貢献されているのだからそれでよいのだとされております。

福沢諭吉は、一身独立して励むことが国家の発展に繋がると「坂の上の雲」で少年時代の秋山好古に言わ

せている。然し、最近の市場原理主義によるリーマンショック等の資本主義経済の腐敗はその終焉さえも感じさせ、又、大量破壊兵器の拡散等、人類の将来をも脅かされる世の中になっております。

マルクスの全体主義経済は理論的で一番よいと思うのだが、人間の本能からいってダメだと思う。競走のない社会には進歩が無いからである。必要なものを必要だけ生産供給するという。それは誠に資源の面からも環境汚染の面からもよいと思うのですが、地球規模でそういう時代が来ぬものかと考えさせられる今日此の頃でございます。

「識字率向上月間・世界ローターアクト週間によせて」 国際ロータリー第2660地区 ガバナー 大谷 透

三月は識字率向上月間です。識字率向上のためのプロジェクトは1986年、国際ロータリーの長期計画の中に強調事項として掲げられて以来20年を超え、各所で成果が認められますが、これこそ「九牛一毛」を肝に銘じる必要があります。

地域の識字率は、その地域の生活水準を反映するものであり、地域の生活水準を上げるためには識字率の向上は必須です。

乏水・飢餓・貧困からの一時的な救済ではなく、恒久的な問題解決のためには識字率の向上は不可欠です。

我々がWCSプロジェクトを計画する時、識字率向上に関するプロジェクトは、その地域の長期的な発展に最も必要なものの一つである事は確かです。限られた資金を如何に使うか、現地RCとよく相談し、長期的視野に立った検討をする必要があります。

我が国が明治維新を経ていち早く先進国の仲間入りか出来たのも、それまでの寺子屋などによる素地があったとはいえ、明治政府の行なった教育制度の徹底による識字率の高水準と外国人宣教師などによる女性の教育が大きな役割を果たしたといわれています。母親が教養を身につければ、必ず子供に伝わります。

今や世界は狭くなり、人口増加、環境破壊、国際紛争、核武装など人類の直面する問題は地球規模で考えなければならない様相を呈しています。低い識字率はその国の問題だけでは済まないのです。日本開国当時、心ある外国人が日本社会の生活水準向上のため、教育に誠意を注いでくれました。我々はそのような外国人を今でも尊敬しています。ロータリー綱領IV項:ロータリーの世界的親交を通して、発展途上国の識字率向上に誠意を示すことは、日本国の道義を高め、ロータリーのイメージアップにつながると信じています。

[ガバナー月信3月号より]